

# 「戦争と平和を考える絵本」 58冊

北海道教育大学札幌校2021年度後期  
「学習指導と学校図書館」受講生/編  
野村邦重/編集(2022.03.06)

書名(五十音順で掲載)	著作者・訳者	出版社	出版年	すいせんコメント
1 あいうえおのき ちからをあわせたもじたちのはなし	レオ・レオニ/作 谷川 俊太郎/訳	好学社	1979	文字たちが最後に作る文章は「地球に平和を すべての人々に優しさを 戦争はもうまっぴら」
2 秋	かこ さとし/文・絵	講談社	2021	太平洋戦争の時、高校生だった作者が体験した実話。戦争の悲惨さに怒り震える作者が、いつまでも忘れないように子どもたちに伝える。平和を願う作者の強い思いが込められている。
3 あるひあるとき	あまん きみこ/文 ささめや ゆき/絵 佐藤 仁史/解説監修	のら書店	2020	2 あまんきみこが初めて語る子ども目線の戦争の話。第二次世界大戦中、旧満州の大連に住んでいた「わたし」には、大切な友だちがいました。こけしのハッコちゃんです。でも…
4 いのりの石 ヒロシマ・平和へのいのり	こやま 峰子/文 塚本 やすし/絵	フレーベル館	2015	8月6日、広島に原爆が投下される以前の様子から、その後爆した石が「祈りの石」となったのはどうしてなのか。私たちが知るべき物語。
5 野坂昭如戦争童話集 沖縄編 ウミガメと少年	野坂 昭如/作 黒田 征太郎/絵	講談社	2001	沖縄での戦争の様子を、戦争など何も知らないウミガメ、家族からも村からもはぐれてしまった少年の二つの視点から描く。死体を見慣れ、助けてあげようと思ったタマゴさえ食べてしまう。戦争はこんなにも人の感覚をおかしくさせる。
6 オットー 戦火をくぐったティヘア	トミー・ウンゲラー/作 鏡 哲生/訳	評論社	2004	日本だけでなく他の国の子どもたちが、戦時中どのように生きていたかを、学ぶことができる。戦争の悲惨さと友情の大切さを感じることができる。
7 おとうさんのちず	ユリ・シュルヴィッツ/作 さくま ゆみこ/訳	あすなろ書房	2009	2 戦争の戦禍から逃れて暮らす、貧しく食料も乏しい親子3人の話。戦争の悲惨さを伝えるだけでなく、「一枚の地図」によって、広い世界を知り、生きる希望や活力の大切さが伝わってくる。
8 おとなになれなかった弟たちに…	米倉 齊加年/作	借成社	1983	懸命に子を守ろうとする母の姿、弟への思いと飢えとの葛藤、戦時中の人々の生活の苦しさを、戦争の怖さを描く。
9 母さんはおるす 新装版	グエン・ティ/作 いわさき ちひろ/絵 高野 功/訳	新日本出版社	2004	アメリカ軍によるベトナム全土への無差別爆撃が繰り返される最中に出版された。祖国を守るため戦場に出かけていく母親と、その帰りを待ちながら生きる5人の姉弟の生活を描く。
10 かさをささないシランさん	谷川俊太郎/作 アムネスティ・インターナショナル/作 いせ ひでこ/絵	理論社	1991	雨の日にかさをささないシランさん。人と違うことをするとういだけで、牢屋へ入れられてしまう。自由と正義と連帯について考えさせられる。
11 きえないヒョウのつめあと	甲斐 望/文 柿田 ゆかり/絵	学研プラス	2007	太平洋戦争中、大阪・天王寺動物園で起こった出来事をもとにした話。処分が決まったヒョウとその飼育係の悲しい別れ、命の大切さと戦争の非情さを感じさせる。
12 北の里から平和の祈り ノーモア・ヒバクシャ会館物語	こやま 峰子/文 藤本 四郎/絵	北海道新聞社	2020	被爆者にとって北海道はつながりのある場所。札幌JR平和通駅そばにあるノーモア・被爆者会館、そのつながりや原爆について考えるきっかけとなる。
13 木を植えた男	ジャン・ジオノ/原作 フレデリック・バック/絵 寺岡 襄/訳	あすなろ書房	1989	第一次世界大戦、第二次世界大戦の狭間で、木を植えた男。廃墟の村が戦争の後、どのような未来を描くのか。木を植えたことで、何が変わったのか。生活の中にある平和について考える。
14 キンコンカンせんそう	ジャンニ・ロダリー/作 ペフ/絵 ジュヌヴィエーヴ・フェリエ/彩色 アーサー・ピナード/訳	講談社	2010	戦争を押し進める将軍たちは、町中の鉄を兵器にし、ついには教会の鐘まで兵器にしてしまう。話を楽しみながら戦争について知ることができる。
15 日・中・韓平和絵本 くつがいく	和歌山 静子/作	童心社	2013	日本の兵隊たちはアジアの国々で何をしていたのか、幼いころ戦争を体験した作者が、あらためて戦争とは何かを問いた。兵隊たちに履かれて、海を渡り戦場に行った靴たちを通して、本当の戦争の姿を描き、平和を守ることの大切さを訴える。
16 原爆の火	岩崎 京子/作 毛利 まさみち/絵	新日本出版社	2000	兵士だった山本さんは、焼け跡にくすぶっていた火を持ち帰り、故郷でその火を絶やさず燃やし続けた。その火は、現在も「平和の火」として灯され続けている。ヒロシマや「平和の火」を後世に伝える。
17 ここが家だ ベン・シャーンの第五福竜丸	ベン・シャーン/絵 アーサー・ピナード/構成・文	集英社	2006	いつものように漁をしていただけに…原水爆実験の被害を受けた漁船。悲しさや悔しさが伝わる。世界の悲惨な出来事に目を向けることの大切さを考えさせられる。
18 この本をかくして	マーガレット・ワイルド/文 フレヤ・ブラックウッド/絵 アーサー・ピナード/訳	岩崎書店	2017	「図書館が爆発した時、本はみんな木っ端みじんになった。」戦争がすべてを奪っていく中で、大事なものを隠しながらどうやって引き継ぐのか、その知恵と生命力が満ちている。
19 さがしています	アーサー・ピナード/作 岡倉 禎志/写真	童心社	2012	3 両方揃ったちょっと小さめの軍手、中のご飯が焦けてしまっている弁当箱、色鮮やかなワンピース、8時15分で止まったままの時計…。次々と登場するカタリベとしての「物」たちが、ヒロシマのことを語り、私たち日本人を見つめている。
20 桜物語	大西 伝一郎/作 たち ようこ/絵	文溪堂	2000	敗戦と教え子たちの死というつらい現実に向き合った先生が、「平和の願いを込めた」新しい桜を作ろうと決心する。25年以上かけて「陽光」という桜が生まれた。
21 字のないはがき	向田 邦子/原作 角田 光代/文 西 加奈子/絵	小学館	2019	戦時中の向田さん一家の小さい妹と、いつも怖い音尾さんのエピソードを綴った感動の実話。
22 ジャーニー国境をこえて	フランチェスカ・サンナ/作 青山 真知子/訳	きじとら出版	2018	自分の生まれた国から逃げる。旅が続くうちに、どんどん自分のものが失われる。世界には、命を懸けた難民の旅がある。
23 地雷ではなく花をください サニーのおねがい	葉 祥明/絵 柳瀬 房子/文	自由国民社	1996	今、地球上に埋められた地雷は1億1千万個、犠牲になる人は毎日70人、地雷で手足を失った子どもたちは一生不自由さ・心の傷を負っていかねばならない。地雷撤去キャンペーンの絵本。
24 せかいでいちばんつよい国	デビッド・マッキー/作 なががわ ちひろ/訳	光村教育図書	2005	5 「世界中の人々を幸せにするため」に世界中を征服したある大きな国の大統領の話。強者の歪んだ論理を明いユーモアで皮肉たっぷりに描いた寓話絵本。
25 戦火のなかの子どもたち	岩崎 ちひろ/作	岩崎書店	1978	いわさきちひろの最後の絵本。ベトナム戦争反対を描いた作品だが、現代も戦争の渦中にある子どもたちは世界中に多くいる。その子どもたちに目を向けよう。
26 せんそうがやってきた日	ニコラ・デビス/作 レベッカ・コップ/絵 長友 恵子/訳	鈴木出版	2020	戦争による難民になるってこういうことなのかと気づかされる。戦争について改めて考えることができる。
27 せんそうしない	谷川 俊太郎/作 江頭 路子/絵	講談社	2015	2 繰り返される「せんそうしない」という詩。シンプルだからこそ、力強く心に響く。穏やかで幸せな日常から、一転、破壊されて荒涼とした街の残骸と、黒い空。戦争を体験していない子どもでも、戦争の本質を知ることができる。
28 タケノコごはん	大島 渚/文 伊藤 秀男/絵	ポプラ社	2015	2 出征前に押し掛けた先生の家で出されたタケノコごはんを、ものも言わずに食べ、「先生、戦争なんか行くなよ！」と泣きながら叫ぶ同級生のさき君の表情と、それを聞いた先生の庄巻の表情に心打たれる。
29 チロヌツのきつね	高橋 宏幸/文・絵	金の星社	1972	動物たちの視点から、戦争と平和、命の尊さについて考えることができる。
30 おきなわ・メッセージ つるちゃん	金城 明美/文・絵	絵本『つるちゃん』を 出版する会	1997	何も悪くない普通に生活しているだけの人々の生活を変えたものとして、戦争をとなえることができる。戦争がなく平和を願った人がいて、今の時代に自分たちは生きていられることに気がつくことができる。

31	日・中・韓平和絵本 とうきび	クオン・ジョンセン/詩 キム・ファンヨン/絵 大竹 聖美/訳	童心社	2016		「戦争と空腹に苦しみながら死んでいったすべての子どもたちに捧げます。」 家族で育てたとうきびが僕の背丈ほどになったある日、戦火が村を襲い、見知らぬ土地へ送れる。
32	日・中・韓平和絵本 父さんたちが生きた日々	岑 龍/作 中 由美子/絵	童心社	2016		作者の父である中国人留学生と日本の学友との物語。日中戦争によって友と引き裂かれた人々の無念さから、戦争の悲しさや今なお残る国同士の問題について考えさせられる。
33	なぜあんなに？	ニコライ・ポポフ/作	BL出版	2000	2	文字はなく、絵のみで物語が進んでいく。 小さな争いが大きな戦争につながっていく様子が描かれている。どうして争いがおこるのか、なくならないのかを考えさせられる。
34	なぜ戦争はよくないか	アリス・ウォーカー/文 ステファニー・ヴィタール/絵 長田 弘/訳	偕成社	2008	4	戦争がどのようなことをもたらすのかを描き、戦争をする愚かさを訴えた作品。 痛まじくすげえにやや抽象的に描かれているが、戦争について深く考えることができる。
35	ニコラスどこにいったの？	レオ・レオニ/作 谷川 俊太郎/訳	あすなろ書房	2009		野鼠のニコラスと自分たちの敵だと思っていた鳥たちが出会う話。 独断や偏見で相手を全面的に拒否・否定してしまうことは、誰しもあるが、実際に向かい合い、相手をよく知ってみると、見方が変わる。
36	8月6日のこと	中川 ひろたか/文 長谷川 義史/絵	ハモニカブックス	2011		小学生にもわかるように、わかりやすい言葉で戦争のことが書かれている。 戦争を2度と繰り返さぬように、この本を読んでおこう。
37	日・中・韓平和絵本 花ばあば	クオン・ユンドク/絵・文 桑畑 優香/訳	ころから	2018		国境を越えて痛みを分かち合うために—日本軍「慰安婦」にされた花ばあばの物語。 彼女たちの壮絶な記憶を「過去」へとおさざりにしないため、「未来」で繰り返さないために、この本は生まれた。構想から12年を経て、日・中・韓での共同刊行、実現。
38	はらっぱ 戦争・大空襲・戦後…いま	西村 繁男/画 神戸 光男/構成・文	童心社	1997		ある町の原っぱを通して、60年の移り変わりを描く。 町に少しずつ戦争が浸透していき、空襲で一気に焼ける。そこから徐々に現代の生活へと近づいていく。絵に注目しながら読み進める本。
39	ヒョウのハチ	門田 隆将/文 松成 真理子/絵	小学館	2018		中国の牛頭山へヒョウ退治に出かけた日本兵、成岡正久小隊長が見つけた赤ちゃんヒョウと戦争の悲劇と理不尽さを描く。
40	ヒロシマ 消えたかぞく	指田 和/著 鈴木 六郎/写真	ポプラ社	2019		ごく普通の家族写真を集めたアルバムのような構成。 その平和な家族が被爆したという事実を考えさせられる。
41	ヒロシマのいのちの水	指田 和/文 野村 たかあき/絵	文研出版	2009		今も昔も「水」は「水」だが、その水が時代をつなぐと感ぜられる。 戦争前、戦争中、そして原爆の後、今…「水」の捉え方が違っている。
42	絵で読む 広島原爆	那須 正幹/文 西村 繁男/絵	福音館書店	1995		戦争の前後の日常や原爆の歴史的・科学的事実が書かれている。戦争はなぜ起こったのか、核兵器によって何が変わったのか、詳しく書かれている。
43	ひろしまのピカ	丸木 俊/絵・文	小峰書店	1980	8	一瞬にして広島を変えてしまった原爆の恐ろしさを描いた作品。 原爆をまだ知らない子どもたちが、今もなお人々を苦しめる原爆の悲惨さを学ぶことができる一冊。戦争への怒り、鎮魂、平和への願いを込めて。
44	へいしのなみだ ラーゲレーヴ《キリスト伝説集》より	さとう ひでかず・さとう しなこ/文 つかさ おさむ/絵	こぐま社	1967		温かく清らかな気持ち、殺戮という負の感情を癒し、新しい勇気と力を与えてくれる。 「正のイメージ」は暖色で、「負のイメージ」は寒色で描かれている。
45	へいわってすてきだね	安里 有生/詩 長谷川 義史/画	ブロンズ新社	2014	6	「これからはずっと平和が続くように、ぼくも、ぼくのできることから頑張るよ。」 沖繩に住む小学校1年生の男の子が書いた詩。他人事ではなく、自分事として平和について考えるきっかけをくれる本。
46	日・中・韓平和絵本 へいわってどんなこと？	浜田 桂子/作	童心社	2011	2	平和とはどんなことなのか。ぐっすり眠れること、いやだと言えること…。幸せの本質を教えてくれる。
47	へいわとせんそう	谷川 俊太郎/文 Noritake/絵	ブロンズ新社	2019	8	比べてみると見えてくる。同じ人やモノや場所を、見開きごとに比べると、平和と戦争の違いが見えてくる。シンプルな絵だからこそ、印象に残る。
48	ぼくがラーメンたべてるとき	長谷川 義史/作・絵	教育画劇	2007	7	自分が幸せな時、同じ空の下には苦しんでいる子どもたちがいる。直接「平和」や「戦争」というワードは出てこないが、大人も子どもも考えさせられる絵本。
49	日・中・韓平和絵本 ぼくのこえがきこえますか	田島 征三/作	童心社	2012		苦しみ、悲しみ、憤りがひしひしと伝わってくる。 身近な感情に焦点を当てた描き方によって、戦争は遠い昔のものではなく、すぐそこにあるのだと感じさせられる。
50	ぼくは弟とあるいた	小林 豊/作・絵	岩崎書店	2002		戦争から逃れる道中で、いろいろな困難に遭遇しながらも弟と歩いて避難する。 人々の怒りや喜びがはっきりと描かれている。
51	まちゃんと	松谷 みよ子/文 司 修/絵	偕成社	1983	3	広島に原爆が落とされた後の話。「まちゃん」とは、幼い子が「もうちょっと」「まちょっと」という方言を、回らない下で言った言葉。淡々と静かに語られる文章と、心に響く絵によって、戦争の恐ろしさと命の尊さを教えてくれる。
52	絵本 まっ黒なおべんとう	児玉 辰春/文 長沢 靖/絵	新日本出版社	1995	5	戦争によって突然失ってしまう日常を如実に表している絵本。 お弁当を抱えて元気に出かけていった姿と、骨になって見つかった姿の対比は、子どもだけでなく大人の心も打つ。
53	焼けあとのちかい	半藤 一利/文 塚本 やすし/絵	大月書店	2019	2	遊ぶのが大好き、わんぱくな半藤少年は、中学2年生の時、東京大空襲に見舞われ生き延びた。特徴的な絵とメッセージが心に刺さる。
54	6わのからす	レオ・レオニ/作 谷川 俊太郎/訳	あすなろ書房	2009		妻をめぐって6羽のからすと農夫が知恵比べをしているうちに、肝心の妻がしおれてしまう。解決策が「話し合い」。「言葉の魔法」があれば、長い争いもきっと平和に向かっている。
55	わすれたって、いいんだよ	上條 さなえ/文 たるい しまこ/絵	光村教育図書	2015		戦争の辛い記憶は一生心に残ってしまう悲しさ、戦争の恐ろしさを、次の世代へと伝えていくことの大切さを学ぶことができる。
56	わすれないよ いつまでも 日系アメリカ人少女の物語	ヨシコ・ウチダ/文 ジョアナ・ヤードリー/絵 浜崎 絵梨/訳	晶文社	2013		第2次世界大戦下で、アメリカに住んでいた日本人や日系人を描いた1冊。 戦争の裏で密かに悲しく辛い思いをした人々がいる。
57	わたしのいもうと	松谷 みよ子/文 味戸 ケイコ/絵	偕成社	1987		「そうした差別こそが戦争へとつながるのではないのでしょうか。」 戦争を舞台にしているわけではないが、戦争を過去のこととせず、自分の日常からつながっていくことかもしれないという自覚が生まれる。
58	戦争と平和を見つめる絵本 わたしの「やめて」	自由と平和のための京大有志の会/文 塚本 やすし/絵	朝日新聞出版	2015	2	「戦争とは何か？」をシンプルにわかりやすい言葉で伝えてくれる絵本。その言葉とともに、太い筆で描かれた力強い絵が、読む人の心に訴えかけてくる。

数字は、おすすめの人数を示す。

Web検索 1)ブックリスト 戦争と平和  
2)戦争と平和 絵本

参考資料 1)「子どもと読書」 親子読書地域文庫全国連絡会  
2020/11・12 子どもたちにすすみたい平和の本  
2019/5・6 子どもたちと憲法  
2018/7・8 平和を守るために  
2018/5・6 子どもたちと憲法  
2017/7・8 平和が脅かされている

<https://www.ovatiren.info/>

2)「子どもの本棚」 日本子どもの本研究会

<https://www.jaschonken.com>

3)『クレヨンハウス 絵本スクール』 2008.11.15 クレヨンハウス 平和の絵本:P89~103

4)『砂漠でみつけた一冊の絵本』 2004.10.6 岩波書店 柳田邦男/著

5)『13歳からの絵本ガイド YAのための100冊』 2018.4.18 西村書店 金原瑞人・ひこ田中/監修

※参考資料には、上記のブックリスト以外に、おすすめの絵本が掲載されているので、是非一読してほしい。